

利用促進策

スタンプビンゴ



無料デーに合わせ、公共交通に乗って集めるスタンプビンゴイベントも実施。親子連れや市外居住者の利用につながった。

地域イベントとのコラボ



地域イベントへ出展し、公共交通での来場を呼び掛けた。地域と交通事業者とのつながりが生まれ、地域全体で公共交通を支える意識の醸成に。

バスのラッピング広告 デジ田



キャッシュレス決済を効果的にPR。

市公式YoutubeでのPR デジ田



動画でTicketQRの利用方法を紹介。

中高生サマーパス 利便推進



中高生向けに夏休み中の乗り放題定期券“サマーパス”をTicketQR上で500円で販売。購入者数はR6年度は61人、R7年度は108人に増加。

無料デーとコラボ 利便推進



TicketQRの提示で特定日(コラボイベント実施日)のバス・デマンドタクシー運賃が無料。

持続可能な公共交通

負のスパイラル



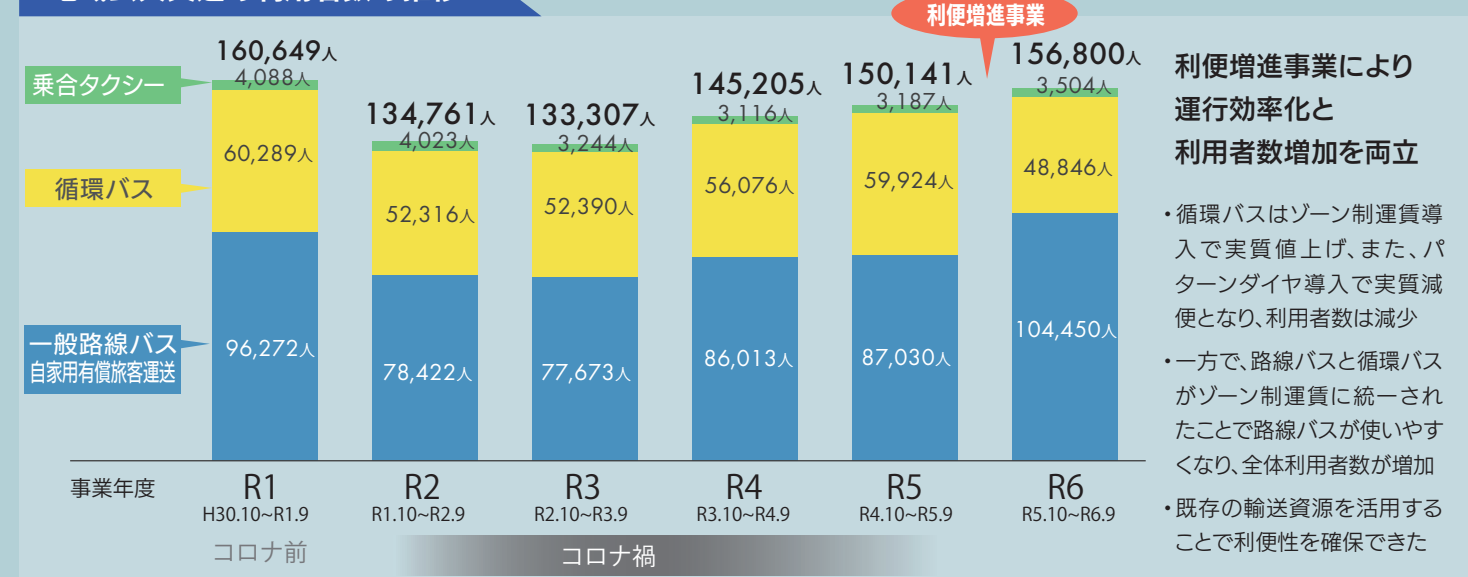
正のスパイラル



SAKAIDE MODEL

数値で見る利便増進事業の効果

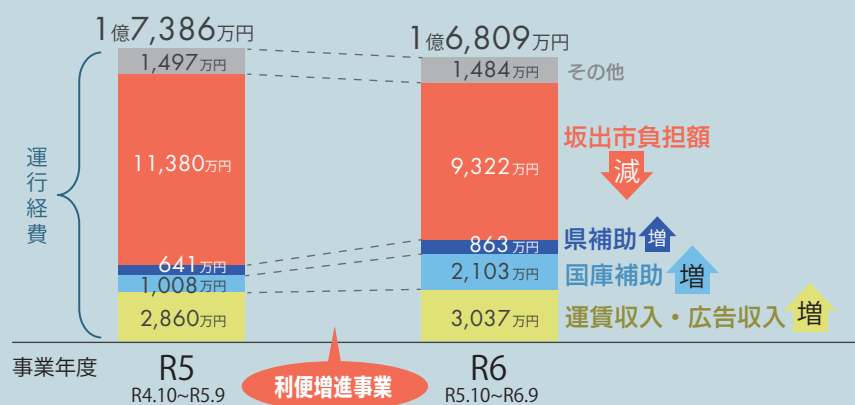
地域公共交通の利用者数の推移



利便増進事業により
運行効率化と
利用者数増加を両立

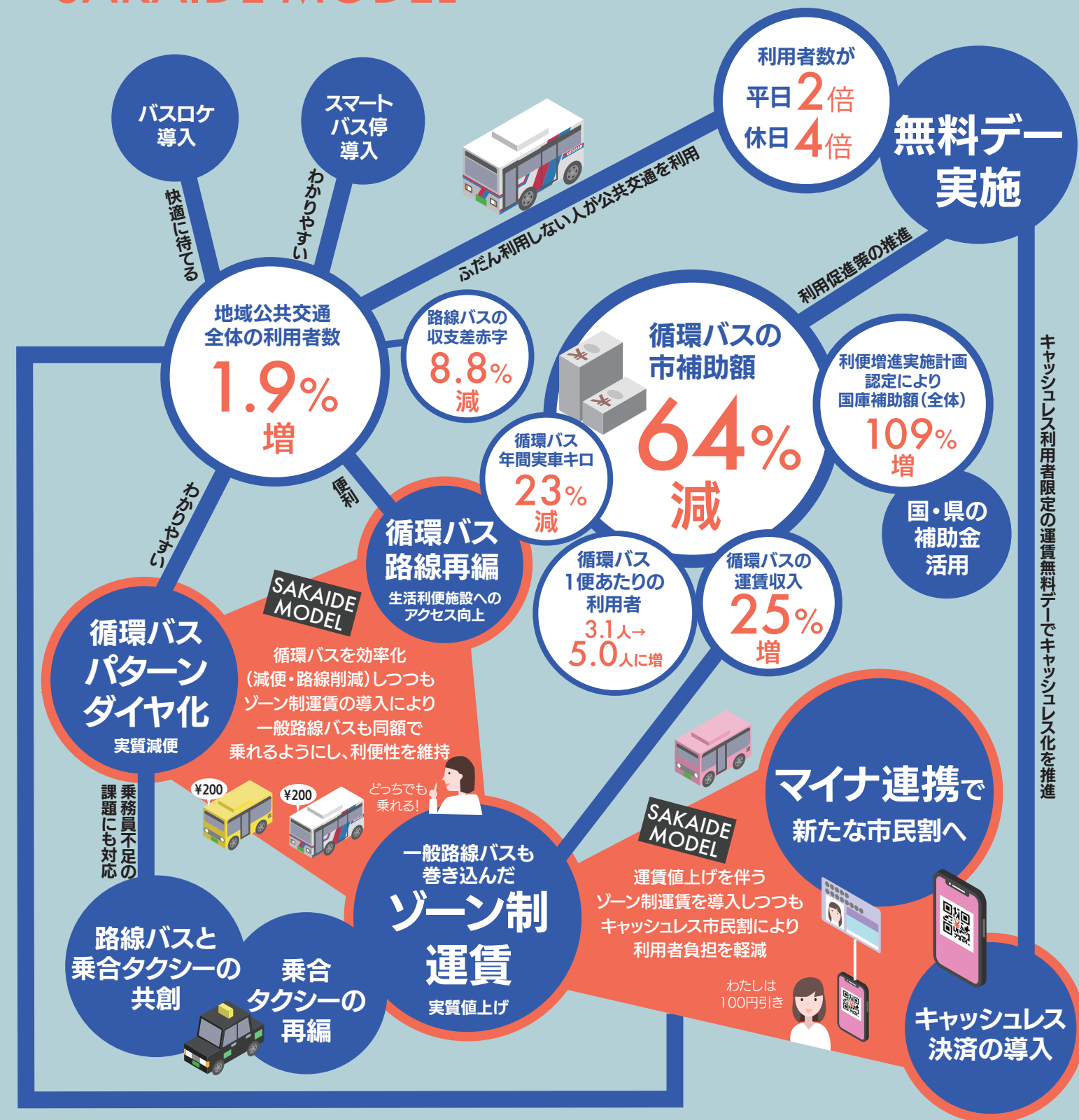
- ・循環バスはゾーン制運賃導入で実質値上げ、また、パターンダイヤ導入で実質減便となり、利用者数は減少
- ・一方で、路線バスと循環バスがゾーン制運賃に統一されたことで路線バスが使いやすくなり、全体利用者数が増加
- ・既存の輸送資源を活用することで利便性を確保できた

坂出市補助対象システムの運行経費とその負担割合の推移



経費削減と市の財政負担額の縮小 実施前(R5年度)と実施後(R6年度)の比較

- ・一般路線バス、循環バス、乗合タクシー、自家用有償運送の運行にかかる経費の総額は、利便増進事業の実施により前年度比577万円減少
 - ・利便増進実施計画の認定により国庫補助額が2倍に増えた他、利用者が増えたことで運賃収入が増加したことにより、坂出市負担額が2,058万円減少
- さらなる利便性向上・利用促進を推進



坂出市地域公共交通利便増進実施施画 (R5.7策定・R5.9認定) →認定により、国庫補助上の特例措置適用で路線維持補助金が前年度比2倍・利便増進事業を推進する事業も国の補助を受けて実施可能に

PDARUサイクル (Plan:計画、Do:実施、Assess:分析・評価、Report:報告、Utilize:活用) 市民の関心を高めてもらう目的でReportを実施

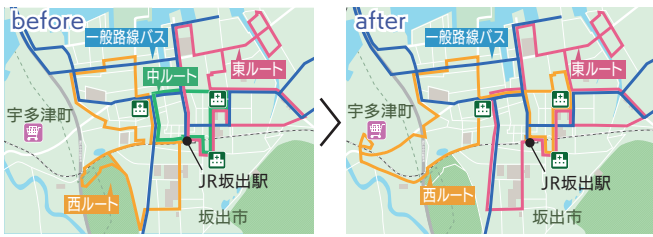
R5年10月

乗合タクシーの運行改善

- ・利用登録の撤廃→**全市民が利用できる**ように
- ・市中心部に乗降場所を新設→**乗継不要で直接目的地へ行ける**ように

循環バスの再編

- ・3つの総合病院を回る中ルートを廃止→**東・西ルートがそれぞれ3箇所の総合病院へ直接アクセスする乗換不要のルートに再編して効率化**
- ・運行範囲を拡大(隣町の商業施設へ)→**生活ニーズに対応**
- ・1時間に1本のパターンダイヤの導入(実質4割以上の減便)→**わかりやすさとコスト削減を両立(乗務員不足対応にも貢献)**

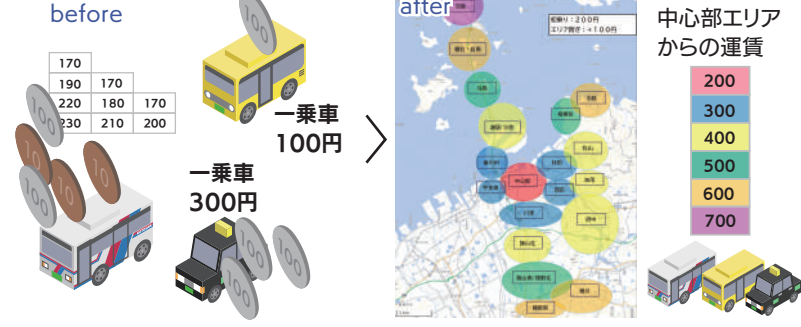


利便

運賃の総合的な見直し

ゾーン制運賃の導入

- ・路線バス・循環バス・乗合タクシーをゾーン制運賃で統一(初乗り200円・ゾーンをまたぐごとに+100円)→**シンプルでわかりやすく、持続可能性を確保**
- ・1日フリー乗車券の導入(中心部フリー500円、全線フリー1500円)→**複数回乗車する場合の運賃負担軽減**



利便

QRコード決済(Ticket QR)の導入

- ・アプリの他、QRコードを印刷したプリペイドカードも利用可能に→**デジタルデバйдを解消**

Ticket QR市民割の導入

- ・アプリにマイナンバーカード連携機能を実装し、坂出市民認証を受けた利用者は、一乗車ごとに運賃100円引き→**ゾーン制運賃による実質値上げを相殺**
- ・交付率100%のデジタル田園都市国家構想交付金(マイナンバーカード横連携型)を活用して導入
- ・従来の地域回数割引券を廃止→**必要な都度、無駄のない公平な利用支援を実現し、バス事業者の事務負担も軽減**

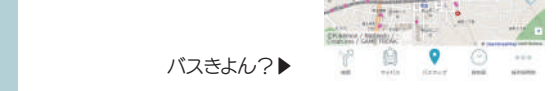
利便 デジ田



キャッシュレス決済の促進

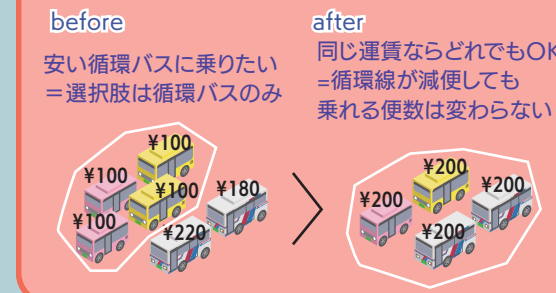
バスロケ・乗降センサ導入 (R5.2)

- ・バスロケ「バスきよん?」導入→**バスの現在地・遅れ・混雑状況をリアルタイムに配信**
- ・乗降システムの導入で乗降センサによるバス停別の乗降を把握→**データに基づいた政策立案が可能に**
- ・国の新モビリティサービス推進事業の補助を活用、市町と事業者で負担



SAKAIDE MODEL

- ・パターンダイヤの導入で実質減便になったが、ゾーン制の運賃で、一般路線バスも循環バスも同一ゾーン内であれば同額で乗れるようにして、利用者の利便性を維持
- ・既存の一般路線をそのまま活用することで、路線バスの効率化と利便性の両立に成功



公共交通無料デーの実施



- ・R5年4～5月に実施した公共交通無料デーでは、平常時と比べ利用者数は平日で約2倍、休日で約4倍、最大で15倍を記録した路線も→**ふだん利用しない人が利用し、バスの乗り方や調べ方を知ってもらうきっかけに。今後の移動の選択肢となる可能性が向上**
- ・R5年11月以降はキャッシュレス決済利用者に限って公共交通無料デーを実施→**キャッシュレス決済の普及に貢献**

路線バスへの転換

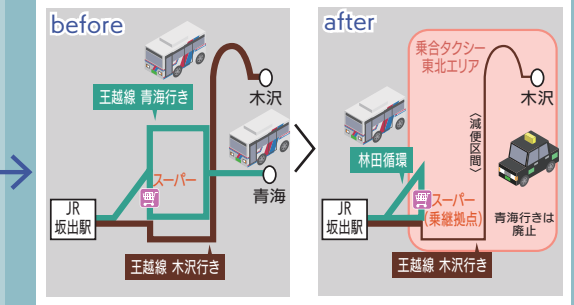
利便

R6年10月

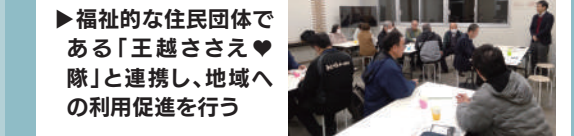
- ・コロナ禍における離職と2024年問題で乗務員不足が深刻化、東北部で路線バスの大幅な減便と一部区間廃止に

路線バスと乗合タクシーの共創

- ・路線バスの減便・廃止区間に乗合タクシー「東北エリア」を新設、路線バスの乗継場所(地域のスーパー)まで接続→**地域の移動手段確保**



- ・面的に運行する乗合タクシーにより、従来の交通空白もカバー
- ・通学下校時間に合わせた運行時刻設定
- ・スーパー敷地内での安全で利便性の高い乗り継ぎ
- ・バスと乗合タクシーの乗り継ぎ運賃に対応



乗合タクシーの運行改善

- ・運行エリアの拡大・統合→**効率性向上とともに、互いのエリアの施設にも行けるようになって便利に**
- ・増便(1日4便→5便に)と土日祝日の運行スタート→**利便性アップ**

スマートバス停の導入

- ・交通結節点であるJR坂出駅と、公共交通利用者が多く周辺に多数のバス停がある坂出市立病院の2箇所に設置→**発車直前まで快適な環境で待てる他、情報発信の場としても活用**



SAKAIDE MODELの取組は今後も続きます!

国のメディアでも紹介されています。

マイナンバーカード・インフォ



(デジタル庁)

地域のモビリティ確保の知恵袋2024



(国土交通省)

凡例

- 循環バス
- 一般路線バス
- 乗合タクシー
- 自家用有償旅客運送

- 利便 利便増進実施計画に記載の事業
- デジ田 デジタル田園都市国家構想交付金の事業
- 共創 共創モデル実証運行事業(共創・MaaS実証プロジェクト)
- 利便推進 利便増進計画推進事業